

		公表		事業所における自己評価結果		
事業所名		c o c o 虹(児童発達支援)		公表日 2026年 1 月 31 日		
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5		人数や活動内容によって部屋を分ける、2グループに分けるなど工夫しています。	収納の仕方や構造化の工夫は状況に応じて今後もおこなっていきたいと思います。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5		基準よりも多く配置しています。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5		施設は玄関以外バリアフリーです。写真付きの収納がごで分かりやすくしていたり、クールダウン場を設けたり構造化は図っています。	障害の特性や年齢等、その時々に必要な物品や環境上の配慮は今後も検討し実施していきます。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5		毎朝の清掃と活動後に汚れた場合は都度掃除をするなどし、きれいな環境で過ごせるよう努めています。	部屋の広さに対する子供の人数や室温などにも配慮しています。他にも必要なことは取り組んでいます。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5		クールダウン場や個別療育をする際は部屋や場所を分けて使用しています。	必要に応じてパーテーションを増やすなど工夫していきます。
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5		ミーティング等で問題や解決したいことについて話し合いをしています。	パート職員が不参加となる時間帯があるため、固定にせず時間や曜日の調整をしています。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		評価表のご意見や感じられている思いを確認し、改善に繋がっています。	意向にないことでも考えられることは取り組んでいきたいと思ひます。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		個人面談や職員同士の意見交換をしながら改善に繋がっています。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5		第三者は屋島地区で委員をされている方に依頼しています。また担当税理士の方からも助言等いただいています。	いろいろな方からのご意見を参考に施設運営をおこなっていきます。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5		個人で受けたい研修については会社が協力し受けやすい環境を整えています。定期的な全体研修も開催しています。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5		事業所の支援プログラムは作成し、公表しています。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	5		ニーズや課題の把握と、保育施設や家庭での様子をお聞きし分析し見通しを持った支援計画を立てるようにしています。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		モニタリング内容や理学療法士の専門的な内容も踏まえて作成検討しています。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5		支援方針や短期長期目標に沿って支援しています。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5		システム内やP C内に記録し保管しています。	
関係機関や保護者との連携	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5		地域支援や地域連携については保育園や訪問看護ステーション、コミュニティセンター等の地域の方に周知、理解を得ながら支援に繋がっています。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5		個人の得意なことと交えながら、職員で意見を出し合いながら立案しています。	日常生活・体験活動・運動・音楽・製作で組んでいますが、今後他にも取り入れられるものがあれば取り入れていきたいと思ひます。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		日常生活・体験活動・運動・音楽・製作をまんべんなく設定し、内容を工夫しています。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	5		年齢や発達状況、ニーズに合わせて個別課題を組み、集団活動では他者と関わりがもてるような内容を取り入れています。	こどもたちの状況に応じて変更や見直しは常におこなってきたいと思ひます。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5		朝のミーティングで内容や準備するもの、担当を決めています。必要であればボードにも記載しています。	
関係機関や保護者との連携	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5		支援後に時間を設けて情報共有しています。18時まで利用者がいた場合は重要な事案のみ共有し、翌朝に報告しています。	翌朝の場合は伝え忘れがないよう、メモを取っておくなど対策していきます。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5		記録は残しており、支援の見直しや手立てに繋がっています。また連絡帳の内容も確認しています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		モニタリングや職員との意見交換をおこない、継続する部分と見直し修正する部分は判断し作成しています。	
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5		児発管または前児発管が参加しています。理学療法士からの言葉を預かって伝えたりもしています。	必要に応じて理学療法士が参加することも取り組んでいます。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5		地域の訪問看護ステーションや障害福祉、保育教育機関と連携をとっています。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5		インクルージョンに向けてクラスでの過ごし方やお友だちとの関わり方について着目し、支援をおこなっています。	連携に関しては施設によって綿密さに偏りがある為、改善点として取り組んでいきたいと思ひます。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5		担任の先生が決まった時に、保護者の方を通じて情報の共有をおこなっています。	
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
	29	地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	30	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	31	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	32	(31は、事業所のみ回答)				
	33	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	5		センター主催の研修や連絡会に参加して、情報の取得をしています。アルプス香川の方を招いて研修しました。	個別で連携を図ったことはないのので、今後は必要に応じてしていきます。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	5		他の事業所さんと合同イベントを開催し、事業所外の子と一緒に遊ぶ経験をしました。	現在保育施設との交流の仕方を模索中です。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		送迎時や必要に応じて個別でお声がけさせていただきながら共通理解を図っています。	

保護者への説明等	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	発達障害児の思春期のことを保護者向けの研修を開催しました。また児発の日には家族支援の場を設けました。	親子イベントで交流できるようにしていますが、そのほか交流や情報共有できる場を提供できるよう検討していきます。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5	契約時にお時間をいただき丁寧におこなっています。	変更等があれば都度周知していきます。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5	ご意向は見直しの際に確認し作成しています。	こどもの最善の利益については奥深いため、しっかり検討しながら作成していきます。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	5	施設内に入っただき説明と同意を得ています。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5	面談時をメインにおこなっていますが、必要に応じて個別で対応させていただいております。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	5	兄弟児参加可能な田植え・稲刈り・餅つきイベントや夏祭り、クリスマス会を開催しました。親子イベントの時に交流できるようにしています。	親子で楽しめるイベントを今後も検討しながら開催していきます。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5	相談や申入れがあった場合は、出来る限りその場か次回のご利用日でお受けしています。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5	H U GシステムやSNS投稿で発信しています。	SNS投稿では個人情報に十分注意していきます。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5	退職後も守秘義務があることを雇用契約に入れています。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5	個別で視覚支援のカードやボードの使用、送迎時の個別のやりとりでコミュニケーションを図っています。	必要に応じて柔軟な対応をしていきたいと思います。
非常時の対応	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	避難訓練の時に参加をお願いしましたが、都合があわず不参加でした。近所の方とは交流があり、理解を得ながら運営しています。	多方面から地域の理解と協力を得ながら施設運営をしていきたいと思っています。
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5	訓練をした時は連絡帳や玄関掲示で報告しています。	事前周知やSNS投稿なども今後取り入れていきます。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5	避難バッグの中の見直しなどもしています。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5	契約時に確認し、必要であればてんかん発作時の薬を預かっています。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	検査結果や医師の指示書のコピーを預かっています。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5	日常の衛生面・食事面・台風時・緊急時・活動時など項目に分けて記載しています。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5	契約の時に計画に記載している内容を交えながら説明しています。	交流の場などで周知する機会を設けていきたいと思います。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5	ヒヤリハットのファイルを用意し再発防止に向けて取り組んでいます。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5	研修や虐待防止委員会を開催しています。	研修の内容が固定化しないよういろいろな事例検討を取り入れるなど工夫していきたいと思います。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	5	現在児童発達支援のお子さまで該当者がいないため記載していません。実施する場合は組織での検討と同意を得てからおこないます。	